

播磨の干潟へ

播磨地方の干潟に行きたい、そう強く思う様になったきっかけは、昨年末に姫路市立水族館に立ち寄ったことでした。大学の先輩から姫路の水族館はめちゃ良いよ、と聞いて以来ずっと興味が有り、別目的で姫路を訪れた際に上手く時間を作れたので、これは好機と行ってみることにしました。入って驚いたのが、淡水スペースの広いこと！一館丸ごと淡水の生物を対象にしている、完全に見入ってしまい3時間があっという間に過ぎました。もちろん海水スペースもあり、想像以上の濃さで時間内に周りきれず、また改めて訪れたいと思う水族館でした。帰り際に売店に寄ると、あるオリジナル図鑑[写真 1]が目を引きました。中身をパラパラ見てみると、播磨地方に特化した図鑑で、特に干潟のハゼについて詳しく述べられていたのが気に入って、即購入しました。家に帰ってこれをじっくり読んでいるうちに、よし来年の春は播磨の干潟へ行こう！と強く思うようになったのです。

実は2016年春に1度播磨の干潟を訪れたことがあります。この頃はまだ干潟、もとい汽水域へ行くようになってそれほど経ってない頃で、汽水域で出会う魚たちはどれも真新しいものばかりでした。この時はヨウジウオ[写真 2]やシロウオ[写真 3]などとの出会い、汽水凄え！と感動したものです。ビリンゴにも出会いましたが、これが後に引っかかるようになります。以降、干潟の魚を求めて和歌山の方へ行くようになり、行くたびに沢山の魚種に出会えることからハマってしまい、すっかり播磨の干潟は疎遠になっていました。和歌山の干潟でもビリンゴはレギュラーメンバーで、今ではずいぶん見慣れた魚になりました。そこで思うようになったのが、この見慣れた和歌山のビリンゴと播磨で出会ったビリンゴ、何か雰囲気が違うぞ、播磨の個体はより頭が大きくコロッとしているぞ、ということです。この事に気づいて以来、播磨に再訪してもう一度良く観察せねば、とずっと思っており、これを確認するという目的もありました。

さて、いざ播磨の干潟へ。この日は早春にも関わらず季節はずれの暖かさで、絶好の魚とり日和でした。ただ1つ心配なことがあり、潮があまり引かない日でした。でも行ってみなきゃ分からない、入れなかったら違う所探そう、と思い切って出掛けることに。着いてみると陸が現れた干潟が確認出来たので一安心。ところが、バードウォッチングしている先客がいっぱい。思うようになりません。とはいえ折角来たのだから、仕方なく離れの本流の方に入り、先客が退くのを待ちました。本流で網を引き摺っても目当ての魚は入らず、ヒメハゼやイシガレイがたまに捕れる程度でした。予想通りでしたが、汽水域春のレギュラーメンバーに出会えて嬉しくもありました。そうしている内に先客の姿が見えなくなったので、干潟の方へ。溜まりに無数の逃げ惑う姿が見えました。近付くとなかなかの軟泥で、あれ前来た時こんなだったっけ？となりました。なにせ7年ぶりですから、地形が変わっていてもおかしくありませんし、シンプルに忘れていただけか



▲写真1：オリジナル図鑑



▲写真2：ヨウジウオ



▲写真3：シロウオ